

卷 頭 言



大学の改革に思う

和歌山県立医科大学 学長

山 本 博 之

大学設置基準の改正，少子高齢化，グローバル化，財政危機などを背に，大学の改革が本格的になっています。大学は改革プロセスのさなかにあり，それぞれの大学はその存在意義，役割などを点検し，アイデンティティの確立を目指すという時代にあると思います。

改革の方向は，設置目的，設置形態，学科内容，規模，立地などが大学によって異なっており一様ではありません。大学としての本質を保持しながら，それぞれの大学の個性がどのように発揮されていくのが楽しみでもあります。

大学医学部，医科大学では，科学技術の急速な発展，国民の保健医療に対するニーズの多様化，高度化，提起されている医学医療の問題点などを踏まえた教育カリキュラムや制度，組織の見直しが盛んです。また，教育に対する関心が喚起され，その重要性が認知され，教育能力が適正に評価される環境づくりが急がれていると思います。

大学と大学運営のあり方が問われている中で，このたび文部省によって国立大学を独立した法人とする方針が正式に表明されました。この影響は国立以外の大学にも及ぶことが予想され，今後の成り行きは大いに関心のあるところです。

独立法人化によって予算，人事などに自由度が増し，大学の自律的な活性化が期待される一方で，行財政改革の中で芽生えたものだけに財政上のスリム化重視への危惧もあります。

国，公，私立すべての大学は，程度の差はありましても何らかの形で国の財政支援を受けています。公的支援は，大学が育成する人材や研究開発成果は公共利益に繋がるものであり，また教育への機会均等という政策目的から説明されています。大学のどのような機能が，どの程度に公的支援に値するかについて考えてみなければならないと思います。

医科系大学の効果的運営のためには，教員とそれ以外の職員（看護職員を含むコメディカルスタッフ，行政事務職員など）の人事が別系統であることも改善されるべき課題の一つかと思います。

すべての大学構成員が，職域，専門分野を越えて，共通の目的に立ち向かえるような体制づくりが望まれるところです。

医学医療の原点に立ち，誰のために，何のために，について認識を深め，社会と密接に連携した存在感のある大学づくりに，自立心をもって夢を膨らませる好機としたいと考えています。